

蔵色又せきしき以もつやや 12

前赤壁賦

(1) ①「既望(きぼう)」を現代仮名遣いで読み、陰暦の何日を指すかを書け。

(2) ③「一葦(いちゐ)」の読みを現代仮名遣いで書き、何をたとえたものかも書け。

(3) ⑤「客に洞簫(どうせう)を吹く者有り」の「洞簫」の読みを現代仮名遣いで書き、どのような楽器かも書け。

(4) ⑦「…孤舟(こしう)の嫠婦(りふ)を泣かしむ」の「嫠婦」の意味を書け。

(5) ⑩「蜉蝣(ふういう)を天地に寄す」の「蜉蝣」の読みを現代仮名遣いで書き、意味も書け。

(6) ⑪「吾が生の須臾(しゆゆ)なるを哀しみ」の「須臾」の意味を書け。

(7) ⑮「造物者(ぞうぶつしや)の無尽蔵(むじんざう)」の「無尽蔵」の意味を書け。

B 句法 (8～13)

(8) ④「羽化(うくわ)して登仙(とうせん)するがごとし」の「がごとし」は何を表すか。文法上の名まえと意味を書け。

(9) ⑥「怨むがごとく慕ふがごとく、泣くがごとく訴ふるがごとし」は、同じ組み立ての句を向かい合わせて並べている。この表現技法の名を書け。また、白文

(原文) ではどう書かれるかも書け。

(10) ⑦「幽壑の潜蛟を舞はしめ、孤舟の嫠婦を泣かしむ」に用いられている句法名を書け。

(11) ⑧「此れ曹孟徳の詩に非(あら)ずや」は、白文ではどのような形(句法)になるか。その形と意味を書け。

(12) ⑨「今安(いづ)くにか在(あ)るや」の句法名と意味を書け。

(13) ⑫「未(いま)だ嘗(かつ)て往(ゆ)かざるなり」の「未」は何と呼ばれる字か。読み方もあわせて書け。

C 主語・指す内容 (14、17)

(14) ② 「斗牛（とぎう）の間に徘徊（はいくわい）す」の主語は何か。また「徘徊す」はここではどのような意味か。

(15) ⑧ 「此れ曹孟徳の詩に非ずや」は、蘇子と客のどちらの言葉か。またそう判断できる理由を、本文後半の組み立てから説明せよ。

(16) ⑨ 「今安くにか在るや」で「今どこにいるのか」と言われているのは誰か。

(17) ⑭ 「之を取れども禁ずる無く、之を用ゐれども竭ぎず」の「之」は何を指すか。本文中から二つ抜き出せ。

D 口語訳 (18、21)

(18) ④ 「羽化して登仙するがごとし」を口語訳せよ。

(19) ⑦ 「幽壑の潜蛟を舞はしめ、孤舟の嫠婦を泣かしむ」を口語訳せよ。

(20) ⑪ 「吾が生の須臾なるを哀しみ、長江の無窮なるを羨む」を口語訳せよ。

(21) ⑬ 「物と我と皆尽くること無きなり」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ⑤ 「客に洞簫を吹く者有り」とあるが、⑥の四つのたとえから、その音色はどのような音だとわかるか。三十字以内で書け。

(23) ⑩ 「蜉蝣を天地に寄す、渺たる滄海の一粟なるをや」で、客は自分たちをどのようなものだと言っているか。「蜉蝣」「一粟」が何のたとえかにふれて書け。

(24) ⑬ 「物と我と皆尽くること無きなり」と言えるのは、どのような見方に立ったときか。本文の言葉を引いて説明せよ。

(25) ⑮ 「造物者の無尽蔵」とあるが、蘇子は客の嘆きに最後どう答えたのか。この賦の主題として五十字以内で書け。

F 文学史 (26～28)

(26) この文章の作者はだれか。号(別名)と、活躍した王朝もあわせて書け。

(27) この作品の「賦」とは、どのような文体か。簡単に説明せよ。

(28) この賦は、作者がどのような境遇のときに書かれたか。また、舞台の「赤壁」について注意すべき点を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「安くにか在るや」は反語。「今どこにいるのか、いや、どこにもいない」。曹操ほどの英雄も跡形がない——ここから客の嘆きが始まります。ただの疑問と取ると意味が反対になります。 ②「未」は再読文字、「しむ」は使役。「未だ嘗て往かざるなり」＝まだかつてなくなっていない。「舞はしめ／泣かしむ」＝舞わせる・泣かせる。読みと訳をセットで覚える。 ③主題は「変と不变」と「清風と明月」。変わらない面から見れば万物も自分も尽きない。取っても尽きない自然を友と共に楽しめばよい。記述問題の答えは、ほぼこの二つに集まります。